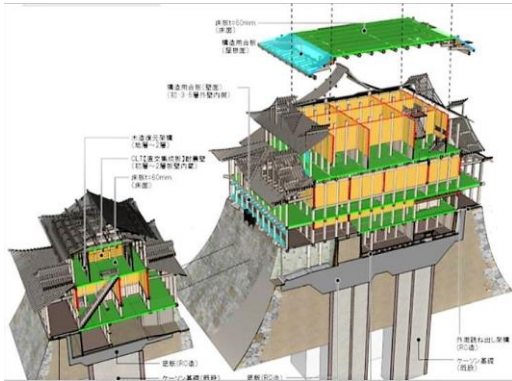


壊すな！名古屋城天守

名古屋城を「戦後復興のシンボル」に



竹中工務店の図面。見かけは同じでも中は壁だらけ

「寸分違わぬ国宝名古屋城の復元??」

「耐震改修しても40年しかもたない」のウソから名古屋市は「40年しかもたない」と言って市民アンケートをとりました。これがウソのはじまりです。

人の入れない木造天守にするのか

河村市長は図面があるから「焼失前の天守を木造で忠実に復元」と言っていますが、ここには観光客は入れません。

観光客目当てのハイテク木造現代建築か?

竹中工務店案で内部は耐震壁で仕切られ、避難用の階段・障がい者用EVもあります。しかしそれでも燃える6階建てからたくさんの人が逃げるのは困難で、さらに対策が必要です。

果たしてこんなハイテク木造建築が国宝になるのでしょうか?

先の大戦で焼け野原となった名古屋城。市民が天守復興のために2億円の寄付を集めました。二度と戦禍で燃えないようにという戦後復興のシンボルを取り壊していいのでしょうか。入場者数の見込みに疑問が出され、さらに文化庁や石垣部会からも慎重な意見や批判が相次いでいます。何が問題なのか、専門家を交えて市民の意見を交換しましょう。

名古屋城 シンポ

8月26日(土) 13時半～

名古屋市博物館講堂(参加費 500円)

ビデオ上映 高田廣司(元教員)

報告者

赤羽一郎(石垣部会構成員・愛知淑徳大学非常勤講師)

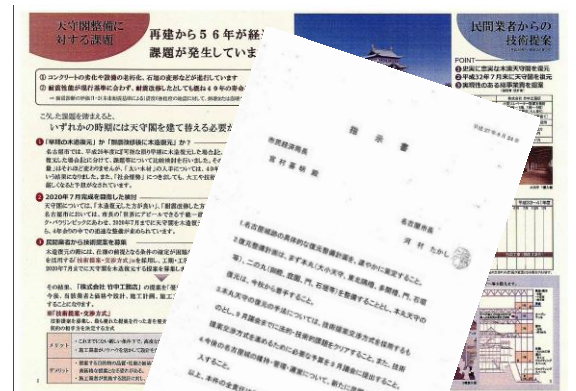
高橋和生(一級建築士)



主催：名古屋城を「戦後復興のシンボル」に 実行委員会

連絡先 〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1301-302 デザインオフィス・タック

高橋和生 TEL052-508-8659 Email:takahashi-shiro@pontak.jp



職員には木造化の業務命令!

木造天守の復元について河村市長名で「全責任は私が取るので、各員全力で取り組まれない」という指示書を出して天守木造化を命令。